

石井っ子だより

平成27年7月17日発行

夏休み号

発行責任者 紺野 宗作

夏休みには夏休みにしかできないことを！

いよいよ子どもたちが楽しみにしていた夏休みが始まります。私は、子どもたちにはいつも「夏休みには夏休みにしかできないことをしよう」と投げかけています。

5年生の宿泊学習で、初日は茶臼岳登山でした。最初は何人かの子が疲れてもう登れないと不平不満を言ったそうです。しかし、山頂に到達したときの達成感と自然の美しさに感動した子ども達は全員笑顔でしたと報告を受けました。田部井淳子さんは、登山家になった理由を小学校4年生のときに登った白河の赤面山登山の感動をあげています。子どもたちは自然体験を通して、自然の美しさを発見したり、畏敬の念を抱いたりします。夏休みは、自然体験を含め様々な体験を行う絶好の機会です。様々な体験を重ねていくことは、考える力や判断力を培い、感性を豊かにしていきます。

日頃、子どもとの時間がなかなかとれないというご家庭でも、夏休みには子どもと一緒に過ごす時間を作り出し、子どもと一緒に様々な体験をし、団らんを深めて欲しいと思います。

第1学期終業式の校長のお話

終業式では、下記のような通知票の所見を紹介しました。

- 1年「穏やかな気持ちで学校生活を過ごし、誰にでもやさしい言葉をかけることができました。」
- 2年「困っている友達がいると手助けしたり声をかけたりするやさしい姿が見られました。」
- 3年「給食をこぼした友達のお世話を進んで行うなど相手を気遣う思いやりに感心しました。」
- 4年「友達の間違った行動に対して、良くなってほしいという願いから注意をすることができ成長を感じます。」
- 5年「友達の良いところをみとめ励ますなど相手の気持ちを考え心優しい行動がとれます。」
- 6年「友達や下級生に対してもいつも親切で代表委員会やクラブ活動では責任感あふれる態度で活動しました。」

本校の学校教育目標の1つに「明るく思いやりのある子ども」があります。石井小学校の子ども達全員が思いやりのある子どもになって、いじめを根絶しみんな仲良くなってほしいということをお話しをしました。

また、私自身が小学生のとき病気で小学校4年生までプールに入れなかったのも、高学年になってから泳げるようになるまで夏休みに頑張った話や大人になって海で溺れて死にそうになった話などをしました。そして、夏休みは交通事故や水の事故に気をつけて楽しく過ごし、2学期、全員が元気な笑顔で会うことを約束しました。

*夏休み前に、担任の先生や校長がどんな話をしたのか話題にしてほしいと思います。

通知票を持って帰ってきたら



私は、「教育は子どものよさや可能性を伸ばすことだ」と考えています。

親も教師も錯覚を起こしているときがあります。

というのは「子どもが伸びたのは、一生懸命教え込んだり、励ましたりしたからだ」と思っていることです。子どもが伸びていくのは、教え込んだからではなく、その子ども自身の力によって伸びていくのです。親や教師が一番考えなければならないことは、子ども自身の力がどうすることによって発揮できるかということです。

そのためには、「子どもの意欲」を育てることが大切です。子どもが意欲を持って、何事にも進んで取り組めるならその子どもの持つ力が発揮され、伸びていきます。子どもを伸ばすためには、意欲を持たせることです。

「では、どうしたら、子どもがやる気をもてるのでしょうか？」

口で言うのは簡単ですが、がんばれと励ますだけではやる気は高まりません。私は、子どものよさを見つけ、ほめ認めていくことだと思います。

完全無欠の子どもなどはいません。その反対に、悪いことだらけ、欠点だらけの子どももいないのです。子どもには必ずいいところがあります。

ところが、悪いところをなんとか改めようと、やかましく子どもを責め立ててしまうことがあるのではないかと思います。例えば、

「うちの子はいつもはっきりしなくて、いつもてきぱき動けないので本当に困っています。」などと話されたお母さんがいました。このように自分の子どもを「この子どもはこうなんだ」と思いこんでしまいますと、何から何まで先入観で見えてしまいます。それが、いつのまには、子ども自身に移ってしまいます。

「ぼくは、いつもはっきりしなくてぐずぐずしているんだ。だから学校でも発表できないんだ」というように劣等感を持つようになります。その結果、子どもは自ら伸びようとはしない子どもになってしまいます。私は、先入観を持つことの恐ろしさをしみじみと感じます。

さて、本日、お子さんが通知票を持って帰って来たと思います。先生方もお子さんのよいところをみつけて文章記述しております。各教科等の1番上の項目は、お子さんの各教科等に対する興味・関心・意欲を表しています。お子さんの意欲をほめ励ましたいです。通知票をきっかけに、お子さんのよさを見つけ出し、子どものやる気を伸ばせるようにしていくことが大事だと思います。

ご連絡

◎自転車ヘルメットの着用について

ヘルメットをかぶらないで自転車に乗っている子どもを見かけます。小学生の自転車事故は増え続けています。お子さんを自転車に乗車させるときはヘルメットをかぶせてください。よろしくお願いします。



(参考) 道路交通法第63条の10

児童又は幼児を保護する責任のある者は、当該児童又は幼児に乗車用のヘルメットをかぶせるよう努めなければならない。